



## 平和は愛から

石原艶子

○人間は人を愛し、愛される存在。愛はすべてを完成させるきずななり。  
憎しみに打ち勝つ唯一の道なり。

○今日、産声を上げた子供たちのために、今、平和を叫び闘いの力と闘う、  
あなたとわたしがここに居る。

○80歳代は日々脱皮する。朝ごとに新たにされて今を生きる青年なり。

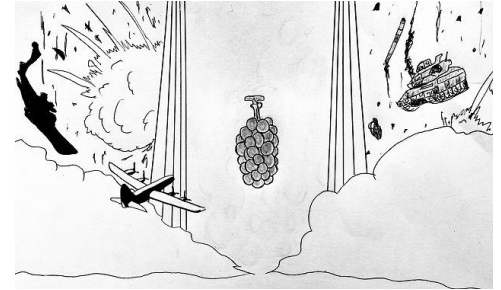


イラスト: 大城旋律(孫)

### ☆2025年、希望はどこに? 苦難と混迷の時代

2025年が明けて、明るい希望に心躍る人はどれほど居たでしょうか。混沌とした不安の空気が世界を覆い、ミサイルの爆発音や子供達の悲鳴が聞こえてきます。人間が人間を殺すという絶対してはならない罪の中に人類は自ら滅びていくのでしょうか。昨年の元旦には能登半島地震、天から地へと苦難のどん底の中で必死でこの一年生きてきた人々、失われた多くの命、一年経っても復興まならぬ現実、厳寒の冬が追い打ちをかけるように苦しい生活が続いています。夏の高温、大雨洪水被害、そしてこの冬の厳寒と大雪など、異常気象が私たちの生存を脅かしています。新年早々アメリカ ロサンゼルスに発生した山火事は広大な面積の森林を焼き尽くし、住宅地に燃え広がって高級住宅地が焼失しました。恐ろしい情景に言葉を失いました。そして富の力によって築き上げた大都市と言えども大火には勝てず、空しく消え去るものであることを世界中の人々が見て知ったと思います。そして私達が真に求めるべきものは資本主義の富の力によって築かれた大都市や高級住宅ではなく、貧しくても助け合って共に生きる共生共存の世界だと思いました。また同時に資本主義によって繁栄し、世界の覇者となったアメリカという国の衰退してゆく様を見たようにも思いました。トランプ政治はどこへ行くのでしょうか。そしてアメリカ追従の日本はどんな選択をするのでしょうか。混迷の2025年、平和への道は見えています。それはただ一つ、憲法9条の絶対非戦平和の道に立ち帰るより他にはありません。

☆戦後80年 —— 敗戦の1945年(昭和20年)に生れた弟や親友たちは、みんな80歳を迎えます。戦後の極貧の子供時代、そして経済成長に湧く青年時代、消費文化にひたり、発展途上国を搾取しつつ豊かさを追求した時代、世界一の使い捨て大国となった日本、それを支えた団塊の世代はみな後期高齢者(75歳)となる今、急激に変化する時代の波に乗り切れず取り残されていく私たち。パソコン、携帯、スマホ、カード、AIなどなど情報の大波に飲み込まれ、真実、本質が見えなくなっていく。戦争体験者は亡くなり、証言者は数える程しか居ない。そして日本人は80年前の戦争のことを忘れ、自分達が犯した侵略殺りくの悪をも忘れ、なかったことにして平然とほおかむりして生きている。そして今再び戦争準備、軍勢力強化、拡大に突き進んでいる。過去と向き合わない者は、また同じ過ちを繰り返すのである。この80年の歩みの中で私達は何を得て、何を失ったのでしょうか。そして今、何を選びどう生きようとしているのか一人一人が問われています。私は確信します。戦後80年の今こそ、私たち日本人は憲法9条に立ち帰らなくてはなりません。非戦平和、武力を持たない絶対平和の憲法9条を宝物として、ここに立つ以外には日本の生きる道はないはずです。悪魔はまことしやかにささやきます。「戦争を起こさないために強い軍勢力が必要だよ、強ければみんな恐れて攻めては来ないから誰よりも強い軍勢力を持たなくては安全はないよ、今はまだ弱いからアメリカに追従さえしていたら大丈夫だよ、最大の強力な武器は核だよ、核抑止が最も有効だ」と。私たちは悪魔の言葉にだまされてはなりません。悪魔の言葉は全部

嘘です。人類を滅亡へと落とし入れる恐ろしい言葉なのです。然し、今の日本は悪魔の言葉に信従しています。だから被爆国でありながら、核兵器禁止条約にも加盟しないのです。そして核兵器の原料プルトニウムを生み出す原発も手放すことが出来ないのです。恐ろしい国です。戦後 80 年の今、目を覚ましましょう。そして沖縄で 20 年以上も叫び続け抗議行動をしている私達の声を聞いて下さい。NO WAR、命どう宝、軍事基地造らせない、弾薬庫造るな、ミサイルいらぬ、ゲート前で海上で抗議し続ける民の声が天に届きますように。私たちは平和を求めて今日も明日も若者達の心の扉をたたき続けます。あなたたちを戦争に行かせる世を絶対に作らないために叫び続けます。私たちは何のために生きているのでしょうか。平和な人間として当り前の人間らしい人間として当り前のことを主張して、正直にあなたとわたしと共に生きていきたいのです。私たちは幸せに生きる権利があるのです。だから共に一緒になって声を上げましょう。戦後 80 年、決意新たに蛇のように脱皮しつつ新しい力を頂いて一歩踏み出しましょう。ある人が政治家に正直や清潔などという徳目を求めるのは八百屋で魚をくれと言うのに等しい、と言いましたが、今だけ、金だけ、自分だけかも知れないけど、いやだからこそ、真に当り前の人間らしい言葉を発し続けていきましょう。私たちは微力であっても無力ではないのですから、最後に残るものは愛であり、愛こそが世界を変える力を持っていることを信じて闘い、そして神のみ下に帰っていきましょう。

## ☆性暴力は「魂の殺人」——

12月22日、米軍性暴力にNO、県民大会に2500人が集結しました。「米兵による少女暴行事件に対する抗議と再発防止を求める県民大会」は若者が中心となって企画され、従来のように政治家中心の型通りの集会と違って、みんなの心が一つになって共に傷つき共に悲しみ、共に泣き自分事として受け止めるみんなの集会となりました。生々しい人間の叫び、米軍による性暴力に対する激しい訴え、怒り、抗議の声が会場に満ち溢れ、会場に入れず外にいる多くの人達とがひとつになって力強い大会となりました。大会の最後に、宮城さんといつもゲートの前で共に歌っていたケ・セラセラのあの歌を全員で魂を込めて歌いました。涙が溢れてきました。

♪～広く、高く、大きく、明日に向かって力強く、人間の優しさを歌え、歌え、歌え、平和と自由求めて生きていけばいいのさ～♪ 優しさとは真の強さ、愛なのだとかみしめながら。そして大会の最後に読み上げられた言葉は「私たちはここに集い、人間の命と尊厳、平和と自由を守るためにさらに固くより深く、もっと長く、共に手を取り合い、闘うことを決意した。さあ明日に向けて再び力強く歩んでいこう」でした。然し、先日の新聞報道によるとこの大会の2週間後に新たな事件の発覚したことに衝撃を受けました。やまない性暴力犯罪に対して結局米軍は何も対応していないのです。性犯罪に対する感覚が全く麻痺しているとしか思えません。声を上げにくい被害者を思うと、これは氷山の一角にすぎないと思います。私達は被害者たちが声を上げられる環境を作り、県民みなが自分事として考え、もっと怒り、訴え続けていくしかありません。軍隊という人殺しの訓練をする組織は性暴力を生む温床です。沖縄から米軍基地がなくなることを切に願い全基地撤去を求め叫び続けていきましょう。

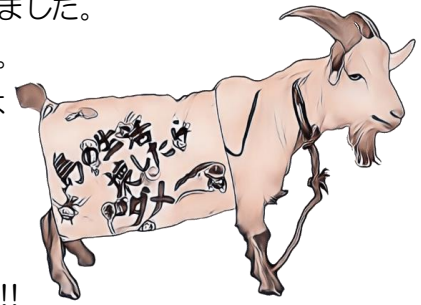
## ☆宮城島からの土砂搬入始まる

11月20日沖縄防衛局はうるま市の宮城島にある鉱山から辺野古埋め立て用の岩ずりの搬出を開始しました。5～6年前にこの情報があって、私たちは辺野古帰りのバスでこの現場を訪れました。あれから心配していたことが今、現実となったことに衝撃を受け、私たちうるま島ぐるみの仲間達の心は悲しみに打ちのめされました。何で!!こんなどかな島から辺野古新基地のために山を壊すのですか、私たちは絶対に許せません。涙の中でこの日から宮城島鉱山ゲート前で座り込み抗議行動を開始しました。辺野古、安和行きもお休みして、朝8時～午後3時頃までゲート前から6～7回搬出するダンプの前に座り込み、

牛歩をして抗議行動をしています。ダンプは当初は名護市など北部の会社でしたが、今ではすべて地元うるま市や沖縄市の業者に代わり、うるま市民の分断が計られています。ダンプの数も増加し、一日100台余となり、農道もあり弱い道路は現在既にヒビ割れガタガタに傷み始めています。カーブの多い片側一車線の道路、草も生い茂り見通しは悪くて危険極まりない状態の中、宮城島から搬出された土砂は中城湾港に運ばれ、台船で辺野古に運ばれています。現場には9月28日に召された私たちのリーダー宮城英和さんの歌がCDで流され、宮城さんの歌声に励まされ、天と地とがひとつにつながって頑張っています。今こそうるま市長は防衛局と向き合い中止を求めるべきなのに、市長は全くの無力、国のやる事には逆らえないとして、住民の側を見ることをしません。4月の市長選はいよいよ正念場です!! どれだけ沖縄の山を壊して土砂を大浦湾に運んでも埋め立ては出来ません。南部戦跡の遺骨混じりの土砂を使うことは絶対に県民が許しません。いよいよ防衛局は奄美からの土砂調達を発表しました。

「辺野古土砂搬出反対連絡協議会」は反対の署名活動を開始しました。ホームページでも賛同を求めています。(宮城島は私の住む石川からは1時間、辺野古よりも遠くてマイカー一人の参加には無理があり、仲間の友人の行動に合わせて同乗させて頂いて、出来る限りでの参加をしています。)

ヤギのオスカーも応援にかけつけてくれました。オスカーありがとう!!



「人間は山羊よりも愚かなり」

### ☆辺野古座り込めば日当もらえるんですか

ある日の辺野古テントでのことです、Aさんに対してある女性が車を止めて言いました。「ここに座り込めば日当もらえるって本当ですか」Aさんビックリ仰天否定されたというお話でしたが、このような嘘の情報を作り拡散させる悪意に満ちた人達がいることに悲しくやりきれない思いです。それは私には沖縄の人々に対する蔑視、侮辱、沖縄差別、沖縄ヘイトだと思えます。きっと意図的にやっているのでしょう。そしてこのような質問をした女性が貧しい生活を余儀なくされ、日当をもらえるならと、ワラにも縋る思いでここに来て質問したという事実で二重に心が痛みました。一人親世帯は全国一、不登校児も全国一、低所得にあえぐ多くの県民、値上がりするお米も買えない世帯が増えているのです。米軍基地の70%を押し付けておきながらその上、沖縄を侮辱するのですか。悪意に満ちたデマを拡散させ、沖縄の人々を苦しめるこれらの人達のあり方こそは戦争へとつながる恐ろしい心です。かつて日本人は朝鮮半島の人々、中国、アジアの諸国の人々を蔑視し、侵略、略奪、殺害した恐ろしい事実があります。これらの日本人の恐るべき罪と平然とデマを流す彼等の心とが重なり合います。沖縄ヘイトは戦争へとつながる心です。私達は黙ってはいません、悪意のデマを見破り戦います。不屈の精神をもって、平和のために闘い続けます。

### ☆食糧危機

——— 12日の琉球新報「米買えないゆとりなし8割、一人親世帯不安感増す」の記事を見てついに心配していた飢餓の時代の到来に衝撃を受け、不安と恐れに包まれました。一番に影響を受けるのは貧困層の人達です。そして地球温暖化、気候異変の影響を最も多く受けるのは農業です。昨年もあの長期間の猛暑の影響を果樹、野菜農家はもろに受けて出荷出来ず減収に苦しみました。熊本で有機農業に励む弟の所から出荷出来ない人参が沢山届きました。長期間の猛暑によって土の温度が上がって人参などの根菜類が育たなかったというのです。また酪農家は円安による餌の高騰により赤字経営となり辞める人も増え、農業者人口減少という国家的な深刻な危機が迫っているのです。農こそは人間生活の根底、農なくして生なし、生命なしです。農業を、農業者を守り育てなくては国は成り立ちません。自給率30%のこの国の将来は飢餓地獄に直面するでしょう。食糧安保が叫ばれる今、私達は自給率を高めるため

に農業者となる若者を育て、支援していくべきです。農業者や貧困層の人達を応援するために税金を使いますか、戦争準備の防衛軍事費に莫大な税金を使いますか、今、一人ひとりの国民が答えを出し、国土を守り国民を守る生命の通った政治に変わっていかなくては、必ず恐るべき飢餓地獄がやってくるでしょう。○われらは、農こそ人間生活の根底たることを確信し、天地の化育に賛して、衣食住の生産に精進せん  
(愛農会綱領)

○百姓は自立する、生命を守り育む、金にしばられない、大地の恵に生きる、世界をつなぐ心となる  
(愛農会の願い)

○いのちをはぐくみ、いのちをつなぐ。日本一小さな農業高校 愛農学園農業高等学校 創立62年、  
(<http://ainogakuen.ed.jp>) 平和は命をはぐくむ土から!! 若者を育てましょう。

## ○新基地、大浦湾に敷砂

沖縄防衛局は昨年12月28日、大浦湾の軟弱地盤改良工事として海底に砂をまく作業に着手し、2時間で終わりました。御用納めの前日に“大浦湾をやるぞ、”というパフォーマンスだったのでしょ。本当に出来るのですか、莫大な税金を使うこの工事を国民はしっかりと見ていなくてはなりません。アメリカは普天間基地を返還する気は全くないので、もういい加減、普天間基地早期返還実現のため大浦湾の埋め立てを進めますなどというまやかしの言うことはやめましょう。本質をしっかりと見て、騙されない沖縄県民でありたいと願います。

○軍事税に反対 —— 政府は自衛隊軍事基地を次々に造って戦争準備をしています。莫大な軍事費は国民から軍事税として徴収する計画です。消費税に軍事税、どこまで国民を苦しめるのですか、生活保護申請2.8%増、弱きを助けず愛のかけらもない政治・・・日本はどこに行くのでしょうか。沖縄は軍事のためにあるのですか、沖縄を見捨てるのですか。私達の叫びは止めることはありません。

○被団協のノーベル平和受賞 —— 田中熙巳代表を始め、高齢の方々のお姿が大きく輝いて見えました。心ひとつに私達国民も核なき世界を求めて叫び、闘い続けたいと決意を新たにさせられました。長年闘って下さった方々に心からの感謝と尊敬の心をお捧げします。

## ☆あみの会、うつぐみの会の活動報告

○沢山の糸を提供して下さい下さった方々に感謝致します。山田博子さんと仲間達が沢山の手編み作品を作って下さいました。売上金は50万円となり、辺野古基金、選挙支援、病気お見舞、活動用品購入、お花料、おやつ代、ていーあんだ一支援などなどに活用させて頂きました。仲間の早田さんがうるまの海からの宝貝を沢山提供して下さい下さったので売上金増加となりました。

○うつぐみの会の大野悦子さんと仲間達は、帯からのカバン類を手作りして提供して下さいました。あみの会と共に、辺野古基金、私達の活動支援金などとして活用させて頂きました。今後は帯類の提供を求めています。御支援に感謝致します。今後とも不要な糸類、帯などの提供を宜しくお願い致します。

## 辺野古基金のために

○あみの会(山田博子:うるま市在住) **リサイクル糸を求めています**

リサイクル糸類を提供して下さい方は**必ずご連絡下さい**。 窓口:石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅:098-964-3237 携帯:090-4471-1942

Email: [yuuwanoie@gmail.com](mailto:yuuwanoie@gmail.com)

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号:12260 番号:12650271 イシハラツヤコ